

齋藤俊夫町長に対する問責決議

齋藤町長が就任して3年7か月、町長は協働のまちづくり等、様々な施策を掲げ就任されました。

平成23年3月11日の大震災は、我が町に未曾有の大被害をもたらし、壊滅的な被害を受けた本町にとって、協働のまちづくりこそが、町の復旧・復興を加速させることになると思われます。

町長は、現在の町政運営にあたっては、町民の声を聞こうとしておりません。

その姿勢は、一人ひとりの声を大事にする協働の理念から外れ、町民に対しての背信行為である。町民との合意形成を図ろうとしない今の町長は、町民の信を得られない。

町政運営は独断で進めるものではなく、職員の意識を高めながら執行部一丸となっていくべきものと思うが、職員との意思の疎通に欠ける今、町長に対する信頼も失われている。

また、議会に対する町長の重要施策の対応、説明責任の欠如など、町長の政治姿勢は、議会軽視と判断せざるを得ません。

町長は、町政の最高責任者であり、将来のまちづくりに向けた舵取り役です。

町長のリーダーシップの欠如は、今後の町政を担う上で非常に懸念される所です。

よって、山元町議会は齋藤町長に猛省を促すとともに、その責任を強く問うものであります。

以上決議する。

平成25年12月13日

山元町議会

提案理由

齋藤町長の重要施策の対応、手法、議会での説明責任欠如などは、議会軽視である。

また、住民との合意形成への努力が見られない今、協働のまちづくりを標ぼうしている町長の姿は“「チームやまもと」 ところをひとつに” からかけ離れた政治姿勢となっており、真の「チームやまもと」を確立するため、齋藤町長に猛省を促すため提案するものです。